

議事要旨

1 会議名	令和7年度第1回吹田市ごみ減量再資源化推進会議
2 次第	<p>1 市からの報告</p> <p>(1)食品ロス削減について</p> <p>ア 令和6年度第2回(令和7年1月開催)フードドライブの取組結果</p> <p>(2)持続可能な航空燃料の普及促進等に関する連携協定締結、及び廃食用油の回収について</p> <p>2 ディスカッション</p> <p>(1)廃食用油を SAF(持続可能な航空燃料)に再資源化する取組の普及について</p> <p>3 その他</p> <p>(1)地域の資源循環促進事業 自治体CE診断・ビジョン作成について</p> <p>(2)てまえどりキャンペーンについて</p> <p>(3)その他</p>
3 開催日時	令和7年8月21日(木曜日) 午後2時から午後3時30分まで
4 開催場所	吹田市役所本庁舎 中層棟4階 全員協議会室 (Zoomによるオンライン出席者あり)
5 出席委員	<p>会長:1名</p> <p>学識経験者:1名</p> <p>市民:4名</p> <p>事業者:5名</p> <p>行政:3名</p> <p>【合計:14名】</p>
6 発言等の要旨	<p>次第1 市からの報告</p> <p>(1)食品ロス削減について</p> <p>ア 令和6年度第2回(令和7年1月開催)フードドライブの取組結果</p> <p>【事務局】</p> <p>令和7年1月に実施したフードドライブの結果について、過去実績との比較や最近の傾向等も踏まえて報告。</p> <p>令和5年度以前と比較して提供人数や提供品数が下回っている理由として、次の3点が影響していると分析。</p> <p>①昨今の物価高による買い控え</p> <p>②必要な量だけ購入するという食品ロス削減の啓発が一定浸透</p> <p>③フードドライブという取組の浸透により、各スーパー店頭の常設コーナーや、福祉施設への直接寄付等、提供先の選択肢が増えた結果、相対的に市への提供数が減少</p> <p>【会長】</p> <p>意見等あるか。</p> <p>【市民1】アジェンダ21すいた(水川氏)</p> <p>以前よりは食品ロスが減っており、良い傾向ではある。しかし家庭系の食品ロスの減少が、まだ十分とは言えないのではないかと。</p>

【事務局】

先ほどの報告にもあったように、啓発の効果により、家庭系の食品ロスも減少している。更なる減少のため、てまえどりや食品ロス7箇条等の普及啓発にも取り組んでいきたい。

【市民2】吹田市廃棄物減量等推進員地区代表者連絡会(市川氏)

今回の提供人数は33人ということだが、提供者の属性や、同じ提供者がフードドライブの趣旨に賛同して定期的に提供している等、分析されていれば教えてもらいたい。

【事務局】

フードドライブについては、提供者の属性等、個人情報の回答をいただいているのが現状。そういった統計を今後取ることが必要か検討したい。

統計を取ってはいないものの、フードドライブを通して寄附をされる方は一定数おり、そういう方から「どこへ寄附されたのかフィードバックが欲しい」という要望はいただいたことがある。

このような場合は、フードドライブはあくまで家庭で余った物を提供いただくのが趣旨であること、寄附が主目的の場合は福祉施設等へ直接寄附をお願いしたいことを説明・案内している。寄附目的でフードドライブに繰り返し提供いただく方は減ってきている。

【学識経験者】

事務局からの報告によれば、事業者からの提供はゼロだったということだが、事業者の方は、子ども食堂等への直接寄附や、食品ロスを減らす独自の取組をされていると思う。今日参加の事業者の方から何かご紹介いただき、共有できないか。

【事業者1】生活協同組合コープこうべ

吹田市内での取組としては、事業所の廃棄物となってしまう管理期限切れの商品を、社会福祉協議会や子ども食堂等に取りに来てもらい必要数をお渡ししている。残った物はフードバンク関西へ送っている。

また、フードドライブでの提供数について、年間を通じての受付とは別に、年2回のキャンペーンを行っているが、キャンペーンでの提供数は少し減ってきている。これは、物価高の影響もあるが、そもそも食品ロスが出ないような仕組みづくり、1週間前の事前注文による販売などに取り組んでいることも影響していると思われる。

【事業者2】(株)平和堂

販売期間が終了した米等を、各店舗所在地の社会福祉協議会へ寄附しているが、最近では米不足により販売期間が終了する米がそもそも発生せず、寄附はできていない。

また、店舗担当者からは、お中元等の時期に余った物をフードドライブへ提供いただくことも多かったが、最近では減っていると聞いている。

【会長】

社会情勢が随分変化していることが背景にあるのがよくわかった。

吹田市の家庭系ごみの生ごみ、食品ロスの増減について、ごみの組成調査等の情報はあるか。

【事務局】

国の調査ではあるが、事業系に比べて家庭系の減少幅は緩やかではあるものの、着実に減少してはいる。

また、吹田市では資源循環エネルギーセンターにおいて、毎年ごみの組成調査を行っているが、毎年変化はそれほどない状況である。

【会長】

大きく変化していないということであれば、やはりまだまだ食品ロス削減へ向けての取組が必要と思われる。

次第1 市からの報告

(2)持続可能な航空燃料の普及促進等に関する連携協定締結、及び廃食用油の回収について

次第2 ディスカッション

(1)廃食用油を SAF(持続可能な航空燃料)に再資源化する取組の普及について

【事務局】

今年3月に SAF という持続可能な航空燃料、いわゆる石油等を原料としない植物由来の航空燃料の供給について協定を締結した。天ぷら油など家庭での使用済油は従来から拠点回収を行っていたが、4月からは SAF 持続可能な航空燃料の原料として回収し、事業者提供する取組を行っている。この取組を紹介するとともに、ごみの減量や資源循環にも資するこの取組を広めていくために、どのような方法があるかご意見等をいただきたい。

まず、協定について簡単に紹介する。

令和7年3月12日に、日揮ホールディングス(株)、コスモ石油(株)、(株)レボインターナショナル、(合)SAFFAIRE SKYENERGY の4者と、SAF の原料となる廃食用油回収の取組を拡大すること目的として、「持続可能な航空燃料の普及促進に関する連携と協力に関する協定」を締結した。

協定締結に至った一番大きな要因は、堺市に国内発の SAF 製造工場ができたこと。工場が東京等にあると輸送にコストを要し、CO₂ も排出してしまうが、吹田市の近隣である堺市にできたことは、国策である国産 SAF 製造を、吹田市が積極的に後押しすることにつながった。

また、廃食用油が SAF、持続可能な航空燃料に再資源化されることは、廃食用油という市民にとって身近な物が、脱炭素に個人が直接貢献できる機会を創出することになる。誰もが乗る可能性のある飛行機の燃料になるということが、「自分ごと」と捉えるきっかけとなれば、意識変革や行動変容につながり、再資源化を促進できると考えたことも協定締結の目的である。

次に、そもそも SAF とは何か、背景も含めて簡単に説明する。

SAF とは、化石燃料以外を原料とする持続可能な航空燃料である。従来の航空燃料と比べて、CO₂ 排出量をライフサイクルで 60～80%と大幅な削減効果があると言われている。

航空分野では、CO₂ 削減に向けた各種目標・方針が設定されており、国際目標とし

ては、2030年までに国際航空におけるCO₂排出量を2019年比5%削減など、国内方針としては、2030年時点でSAF使用量を国内ジェット燃料使用量の10%に置き換える方針が定められている。SAFはこれらの目標達成のための切り札となっている。

このように、SAFが必要とされる背景がありながらも、国産SAFはこれまで製造されていなかった。日本の廃食用油の活用状況を見ると、発生量50万トンの内、家庭系が10万トン、事業系が40万トンとなっているが、家庭系のうち9割以上が廃棄されていると言われている。また、事業系のうち12万トンは国内で再資源化されることがなく、そのまま海外に輸出されている。SAFが必要とされていながらも、家庭系廃食用油の再資源化が進まず、海外に輸出された事業系廃食用油を逆輸入しているのが現状である。

以上のような背景から、官民連携してのSAFの利用・供給拡大へ向けた取組が必要となり、現在は関西を中心に動きが活発になっている。今回の協定締結のきっかけとなった堺市の工場が2024年12月に完工、2025年4月から供給開始された。さらに、ENEOSと三菱商事が和歌山で、2028年度以降の稼働に向けて整備を進めている。

次に、吹田市の取組について紹介する。

吹田市では、平成21年2月から家庭系廃食用油の拠点回収を開始した。市内15所の拠点回収で年間約7トン回収しており、塗料や飼料等に再利用されてきた。直近5年間の回収量は少し増加傾向にはあるものの、回収量に大きな変化はない状況である。

協定締結後は、従来の拠点回収分に加えて、市立小学校や市立保育園の給食調理から排出された廃食用油もSAFへ提供している。SAFの重要性を広く情報発信しており、これらが協定における吹田市の役割となっている。

現在は、「使用済油で空を飛ぶ!？」をキーワードにFRY to FLY Projectに取り組み、協定事業者と協働で廃食用油の回収促進に向けた啓発を行っているところである。具体的には、市内15か所の回収拠点だけではなく、普段油を購入する場所であるスーパー等に回収BOXを設置できないか働きかけを強化したり、FRY to FLY Projectの参加メンバーであり、市内企業でもあるスシローと共同ですいたフェスタに啓発ブースを出展するなど、賛同企業の募集と啓発機会の拡大に努めているところである。また、廃食用油の回収に協力した市民に抽選ですいたグッズをプレゼントするキャンペーンを実施し、冬にはSAF製造工場の市民見学ツアーも実施する予定であるなど、さらなる回収量アップにつながるインセンティブも検討しているところである。

【会長】

質問・意見はあるか。

事業者の方で取組を進めているということだが、本日の参加事業者の方で、何か取り組み始めていること等あるか。

【事業者2】(株)平和堂

店舗から出る事業系の廃食油は100%リサイクルに回しており、リサイクル事業者からは全て飼料化されていると聞いている。

排出量については、2年程前から全ての店舗の総菜加工場に油の濾過機を導入し

たことで、油を長持ちさせることが可能となったことから、排出量は半分くらいになった。

廃食用油の店頭での回収については、行政と連携している3店舗ほどで現在回収中。他の店舗についても、現在事業系の廃食用油の回収を依頼している業者に、回収用ボックスの設置及び回収を実施してもらい、店舗側がボックス設置場所を貸す形で油の回収ができないか検討中。ボックス設置可能店舗の選定及び回収業者との商談を始めているところである。

【事業者1】生活協同組合コープこうべ

店舗で廃食用油の回収が実施できればよいが、いわゆるごみの回収の許可等の問題もあるため、実施するとすれば行政に回収ボックス設置場所を貸す形になるかと思われる。

店舗での回収にはそういったハードルもあるため、まず宅配の方で、5～600mlペットボトルに入れた廃食用油を対面で回収するという事業を6月10日から始めた。

廃食用油をごみとして扱うのか、資源として扱うのかという問題があるが、ごみを無償で回収するというのは許可の関係でできないため、1本3円で買い取っている。買取後は、各宅配拠点に設置したドラム缶2本に移して保管し、定期的に業者に売却。売却単価はドラム缶1本35円。売却後は航空燃料等、様々なものに資源化されていると聞いている。

回収実績としては、6月に4,704本、約2.3トン回収があった。これは、宅配拠点22か所で約50万軒を毎週周っている中での実績。

回収に際しては、容器が汚れやすい問題や、そもそもの許可問題等もあり、店舗での回収は現在行っていない。まずは宅配の方で、対面回収時に汚れ等も確認しながら行っているというのが現状である。

【事業者3】(株)関西フードマーケット

傘下の各スーパーにおいて、過去に廃食用油回収の提案を行政から何件がいただいたことがあるが、実施には至っていない。理由は、油という特性上、回収ボックス設置場所周辺が汚れてしまう等、設置場所に課題があると考え、今後の検討課題としていたため。

今回吹田市が協定を締結したということもあり、他社の回収状況等も参考しながら、今後検討していきたい。

【会長】

事務局から何かあるか。

【事務局】

事業者1の話にあった許可の件だが、廃棄物の運搬と処理、それぞれに法令上許可が必要となっている。

宅配の中で事業者1が運搬するためには、無償だと廃棄物として運搬に許可が必要となるが、有価物として買い取れば運搬に許可は不要という話だと思う。

店舗で回収する場合についても、今回の協定締結にあたって市で次のように整理をした。

SAFのCMもやっているコスモ石油のガソリンスタンドが吹田市内に5か所あり、

そこで回収を始めているのだが、まず、市民が廃棄物として持参した廃食用油を、回収拠点であるガソリンスタンドに置いた段階で、行政である市の所有物に変わる。次に市の所有物を回収業者に有償で売却すれば、回収業者が運搬する際に許可は不要と整理した。

つまり、ガソリンスタンドやスーパーの回収ボックスに置いた時点で、ボックスを設置している市や事業者の所有物に変わり、所有物をごみとして運搬する場合は許可が必要だが、所有物を有償で回収業者に売却すれば、許可なく運搬できるということである。有償であれば廃棄物にはあたらないと整理した。

この有償物、廃棄物の判断は総合判断説が取られているため統一判断がなく、自治体によって解釈がわかれているところである。今回は吹田市の自治事務として整理した。

各事業者は吹田市外にも店舗があるため、統一判断でなければなかなか難しいのかもしれないが、廃食用油の回収を始める場合、まずはどこかの店舗で実証を重ねることになるかと思う。その際、吹田市であれば先述のように整理をしているため、ぜひ吹田市内の店舗から実証を初めていただければありがたい。

【市民3】アジェンダ21すいた(柏原氏)

基本的なところがわかっていないのだが、航空機は石油で飛ぶのではないのか。廃食用油が航空機の燃料になるということは、天ぷら油やサラダ油、米油等の食用油には石油が含まれているということなのか。

【事務局】

要は炭素の数の問題。炭素の数がいくつ付いているのが航空燃料として適しているかという問題である。地下に堆積した生物や植物の油である石油を取り出して精製し、温度や炭素数の違いから、重油、軽油、灯油や航空燃料を作っていくのだが、航空燃料に構造が一番近い油が食用油であり、植物系の廃食用油から航空燃料を精製できる技術ができ、日本にも工場が建設されたということである。広く油という意味で同じである。なお、動物系の油から精製する技術はまだできていない。

また、SAF 搭載率 100%で航空機を飛ばすことについて、技術的には可能であると言われているが、完全な安全性の確認が取れていないため、現在では最大でも50%まで定められている。とはいえ、現時点ではそもそも SAF の生産量がそれほど多くないこともあり、ヨーロッパ等では、数年後に SAF を10%以上混合した航空燃料でなければ離発着不可とするよう規制し、混合率を少しずつ高めている段階というのが現状である。

【市民1】アジェンダ21すいた(水川氏)

事業者の方で宅配時に家庭から廃食用油を回収してトラックで持って帰っているということだが、汚れ等の心配はないか。

【事業者1】生活協同組合コープこうべ

大丈夫である。対面で受け取っているため、ペットボトルがべたついている場合は、次回から油を拭き取って出してもらおうようお願いしている。また、廃食用油の回収方法を記載したチラシを全戸に配布し、ペットボトルに移し替える際のアイデアとしてアルミホイールをろう斗状にして使用する方法を提案する等、試行錯誤しながら進めてい

る。

廃食用油はペットボトル1本あたり3円で買い取ったうえで売却しているが、売却差益は全額、行政と連携して実施している出産祝品の提供等、子育て支援の取組に無償で提供している。

【事務局】

行政から1つ情報提供させてもらいたい。吹田市では30年ほど前から廃食用油の回収をしている。当初は回収場所がべたつくのではないかと等色々な懸念があり、現在は15か所での回収となっている。今後はSAFの協定を締結したこともあり、色々な公共施設に回収を働きかけていこうと思っている。

30年ほど前に回収を始めた当初は、ビニール袋に入れて油を持ってくる等もあったが、現在ではべたつく容器や蓋が甘い容器も一部あるものの、回収ボックス内に吸着マットを敷いていることもあり、回収ボックス内が多少汚れることはあっても、外まで汚れることはないというのが吹田市の実感である。よって、吹田市の公共施設でも回収を広げていきたいと思っている。

また、ろう斗についてだが、確かに持っている家庭は少ないと思う。アルミホイルをろう斗状にして使用する方法については、動画を見せていただき勉強したいが、現在吹田市では、廃食用油の回収に関するチラシの中で、ろう斗は100均で手軽に購入できると紹介している。100均で手軽に購入できるということもアピールしていきたいと考えている。

【市民4】(公財)千里リサイクルプラザ市民研究所(打越氏)

SAFの取組について、飛行機の燃料に活用できるのであれば、ぜひ増やしていけたらよいと思った。

【会長】

廃食用油について、自宅からスーパー等の拠点に持っていくことについて、負担に感じることはないか。

【市民1】アジェンダ21すいた(水川氏)

図書館に行くついでに自転車で持っていくので、大きな負担には感じていない。

【学識経験者】大阪学院大学(鴻巣教授)

各家庭から出たごみを持続可能な燃料等の活用できるものに変えていくという取組が全国各地で展開されている。吹田市でもSAFの取組に力を入れているとのことで、今後は行政の方で制度等を整備して、より事業者・市民の行動に繋がっていくと良いと思う。s

【会長】

他の自治体で、SAFの取組について廃食用油の回収協力をインセンティブをつけている取組はあるのか。

【事務局】

細かい把握まではできていないが、地域通貨を作っている自治体において、地域通

貨を活用してインセンティブの付与ができないか検討している市があると聞いたことがある。インセンティブがあった方が、回収量は格段に上がると思う。

吹田市では現在、油を持ってきていただいた方に抽選ですいたんグッズをプレゼントするキャンペーンをしている。近年では工場見学が人気のため、抽選で、SAF の工場見学に行けるような特典を設けることができないか検討している。

周知とあわせてインセンティブを提供していくことも必要だと考えている。

次第3 市からの報告

(1)地域の資源循環促進事業 自治体CE診断・ビジョン作成について

【事務局】

環境省の「令和7年度地域の資源循環促進事業 自治体CE診断・ビジョン作成」に応募し、採択された。

吹田市の循環資源を生かして、地域経済を活性化させるためのヒントがあるのかどうか、ある場合どのようにしていけばよいのかを専門家の支援を受けながら、検討していく予定。

今後、意見を伺ったりするかもしれないのでその際にご協力をお願いしたい。逆に、各団体でサーキュラーエコノミーについて取り組んでいることがあれば情報提供いただけるとありがたい。

(2)てまえどりキャンペーンについて

【事務局】

例年 10 月に食品ロス削減月間に合わせて「てまえどりキャンペーン」を実施している。今年度のキャンペーンに向けて、今後、事業者の皆様にはキャンペーングッズの必要数等を照会させていただく予定。

昨年度は、コープ様に協力をいただき、店頭啓発をさせていただいた。他にも店頭啓発に協力いただける事業者様がいらっしゃればご連絡いただきたい。

(3)その他

【市民1】アジェンダ21すいた(水川氏)

アジェンダ 21 すいたの資源部会では廃油活用の啓発を行っている。環境教育フェスタでは「こねこねせっけん」のブース出展を行った。合わせて、SAF の取組も啓発を行った。今後も啓発の機会を設けていきたい。

【市民1】アジェンダ21すいた(柏原氏)

近所のスーパーでフードドライブのようなコーナーが一時的にあった。これは企業の取組なのか。

【事務局】

各事業者(店舗)において、独自でフードドライブを実施されているところもある。

【事業者4】山崎製パン(株)

SAF の取組に関して、工場によって廃食用油の量が異なる。吹田工場の量は少ないところではあるが、再資源化は行っている。

【福祉総務室】

市内の社会福祉施設では廃食用油が出ている施設もあると思うので、回収の連携先として可能性はある。